

「CBT 技法研究会」コメント

林 篤裕

(大学入試センター研究開発部)

hayashi@rd.dnc.ac.jp

与えられた命題：
やや批判的な立場からのコメント

- 確認
 - CBT と Adaptive Testing : 異なるもの
 - CBT (Computer Based Testing) :
 CBT (Computer Based Training) ではない
 - CBT が Adaptive Testing を指しているように見受けられる
- Adaptive Testing について論じる
 - Computer が「紙の代わり」の道具なら
 以下の議論の多くは無効

- コメンテーターの立場・バックグラウンド
 - 門外漢：心理測定は素人。計算機統計学。
 - 作題経験あり(数学、7年間、私立医科大学)
 - 「大問」は出題の好ましいスタイル
 - 思考過程を辿りながら問題を読み解く
 - (日本の? 出題の?)文化

- 与えられた命題：
 やや批判的な立場からのコメント
 ==> 門外からみた疑問

- Adaptive Testing の困惑点：統計的には逐次検定
 - 後戻り出来ない
 - 大問の取り扱い
 - testlet で対処可能か?
 - IRTとの兼ね合い
- 測定側の欲求だけで押し進められていないか?
 - 試験時間の短縮の意味：敷地の有効利用?
 - 受験者の達成感：半分は不正解
 - 他人のタイプ之音、リスニング之音、...
 - 点数だけが瞬時に知れても...
 どこをどう間違ったの? 問題の再確認ができない
- 道具を人に合わせていないか?

- 一斉ペーパーペンシル試験を越える利点は?
 - いつでもどこでも何回でも受験??? そんなに魅力?
 - 受験者側の利益になっているのか?
- Item: 被験者測定側の利益になっているのか?
 - 大量生産(消耗)
 - 大量消費(浪費): “消費は美德” か? (60's, 70's)
 - Item Bank, Item Tree の曝露と波及効果
 - 盗難の危険性: Asian の特性(記憶物の著作権)
 - 雑誌記事: Washington Post, (Time)
- ETS の CBT (Adaptive) 政策
 - GMAT, GRE 等は西欧で実用化が進んだ。成功した。
 - 東洋では? 東洋に馴染むシステムであったのか?
 - テストセンターの縮小: 2002年

4



- Washington Post の記事 (February 21, 2001)
 - http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/articles/A30751-2001Feb20.html
 - “China’s Test-Prep Tempest”
 - CBT, item stolen, cheat, 中国(アジア圏)の予備校
 - 出身国によって、スコアの信頼性が異なる
- Time の記事 (March 12, 2001)
 - http://www.time.com/time/education/article/0,8599,101321,00.html
 - “Should SATs Matter?”
 - SATの信頼性、西海岸、設計との関係

7



- 一斉ペーパーペンシル試験を越える利点は?
 - いつでもどこでも何回でも受験??? そんなに魅力?
 - 受験者側の利益になっているのか?
- Item : 被験者測定側の利益になっているのか?
 - 大量生産(消耗)
 - 大量消費(浪費): “消費は美德” か? (60's, 70's)
 - Item Bank, Item Tree の曝露と波及効果
 - 盗難の危険性: Asian の特性(記憶物の著作権)
 - 雑誌記事: Washington Post, (Time)
- ETS の CBT (Adaptive) 政策
 - GMAT, GRE 等は西欧で実用化が進んだ。成功した。
 - 東洋では? 東洋に馴染むシステムであったのか?
 - テストセンターの縮小: 2002年

9

- 医学生・歯学生の共用試験への可能性
 - 全国一斉にCBTを実施する意味?
 - 純粋な”競争試験”が出来るのか?
 - 個々人が勉学に勤んで望む試験になっているか?
 - CBTの仕組みが知られてしまった場合。方策?
 - 試験対策委員の活躍(暗躍?) <=> Asian という文化
- 同一問題の一斉テストで不備があるのか?
 - それを補完できるのか?
 - 決められた日に決められた場所で1回だけ受験
 - 達成度をみる目的の試験ならなおさら
 - 集団教育体制を取っている現状で逐次進級の意味は?
- IRT の問題: 1次元性の保証

10

• CBT の生きる道

- 非Adaptive で運営: 提示装置としての機能
- マルチメディアの活用: シュミレーション
- いつでもどこでも何回でも”学習”: 利用者の利益
- CBT(CB Testing)から CBT(CB Training)へ
- 学習: Rule Space Method (RSM) の活用
 - 学習指針を受験者に返す。一種の分類法。
- 教育界の次のトレンド
 - スコアリングレポート
 - Diagnosis

11